

<p>研修科</p>	<p>周産期・小児科・産婦人科</p>	
<p>責任者</p>	<p>教授</p>	<p>氏名 杉本 圭相</p>
<p>受入可能人数</p>	<p>4 名</p>	
<p>一般目標 (GIO)</p>	<p>研修医は、基本的価値観を自らのものとし、基本的診療業務ができるレベルの資質・能力を修得する。そのため、【近畿大学病院】の到達目標に向かって、研修に励んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医師としての倫理観・責任感・使命感をもって行動できる。 2. プライマリ・ケアを実践できる基本的診療能力(知識、技能、態度)を身につける。 3. 医療における安全管理の方策を理解し、患者ならびに医療従事者にとって安全な医療を遂行できる。 4. 医療チームの構成員としての医師の役割を理解し、他のメンバーと協調して問題解決にあたることができる。 5. 患者を全人的に理解し、患者・患者家族と良好な人間関係を確立し、予防を含む包括的なケアを提供できる。 6. 医師としての社会的使命を自覚し、有限である医療資源を公平に配分し、効率的に使用することができる。 7. 世界の医学研究の動向を理解し、最新の医学知識を修得するための英語能力を獲得し、国際保健の向上に貢献できる。 8. 常に自らを省みて医学の研鑽と学習に励み、自己の向上に努める。 9. 臨床活動の改善を目指し、見出した問題点の意義を検証し、研究課題を設定できる。 <p>具体的には、周産期に関わる医療分野として、小児の特性や医療を理解し、小児科診療を適切に行うために必要な基礎的知識・手技・態度を習得する。また、女性が罹患する疾患に対して適切に対応するため、女性の生理的、形態的、精神的特徴、および出産について把握することを目標とする。</p>	
<p>行動目標</p>	<p>主に小児科を中心とする研修</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 指導医・上級医の指導のもと、小児の生理的特性、小児の診療の特性、小児期の疾患の特性を学ぶ。 (2) 病児・母親などの家族との良好な関係を構築する。 (3) 医療面接、病児の心理状況の把握、小児の身体所見の取り方、小児特有の臨床検査結果の解釈を習得し、正確な診療録の記載、診断問題解決が出来るようになり、適切なチーム医療として病児への対処法を学ぶ。 (4) 小児の臨床検査、治療およびリハビリテーションに必要な医学知識、診療技能(採血、注射、輸液、輸血などの管理、導尿、高圧浣腸、胃洗浄、骨髄穿刺、腰椎穿刺など)、薬物療法(小児に用いる薬剤の知識とその利用法、小児薬用量の計算法)を学ぶ。 (5) 成長発育に関する知識の習得と経験すべき症候・病態・疾患への初期対応・治療、および教育への配慮などを習得する。 (6) 小児救急医療での医療対応を習得する。 (7) 医療現場における安全の考え方、医療事故防止、院内感染対策に積極的に取り組み、安全管理の方策を習得する。 <p>主に産婦人科を中心とする研修</p> <p>A 経験すべき診察法・検査・手法</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 基本的な身体診察法 <p>病態の正確な把握ができるよう、全身にわたる身体診察を系統的に実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 婦人科的診察ができ、記載することができる。 <p>B 経験すべき症例・病態・疾病</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 緊急を要する症状・病態 1) 流・早産および満期産 2) 経験が求められる疾患・病態 <p>必修項目</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 腎・尿路疾患 <p>B① 妊娠分娩(正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥)</p> <p>② 女性生殖器およびその関連疾患(月経異常、無月経を含む。不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍)</p> <ol style="list-style-type: none"> (2) 女性器感染症 <p>B① 細菌感染症(ブドウ球菌、MRSA、A群レンサ球菌、クラミジア)</p> <p>② 真菌感染症(カンジダ症)</p> <p>③ 性感染症</p> <p>C 特定の医療現場の経験</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 予防医学 <p>予防医学の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画するために、性感染予防、家族計画を指導できる。</p>	

<p>方略 (LS)</p>	<p>主に小児科を中心とする研修 小児科については、小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行うために、幅広い小児科疾患に対する診療を行う病棟研修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 指導医・上級医と一緒にチームとして患児の診療を担当し、小児の心理・社会的側面に配慮しつつ、患児・母親など家族への対応と医療面接、小児の身体所見の取り方について研修する。 2. 頻度の高い症状や代表的な小児科疾患に関しては、小児科病棟、NICUにおける実際の主治医として、指導医・上級医と一緒にチームとして担当し、診断、検査、治療方針について研修する。 3. 小児の救急医療、緊急を要する症状・病態の初期治療に積極的に参加する。 4. 外来実習・クリニックおよび市中病院実習において、“common disease”の診かた、医療面接、対処方法や療法指導法を体得する。 5. 回診、病棟カンファレンス、症例カンファレンス、読書会を通じて、主治医として発表・討議に参加することで研修の充実を図る。 6. 将来小児科医ならびに小児とかかわる頻度の高い診療科に進む医師を目指すプログラムとして、病棟研修のみならず、NICU研修、クリニック研修、および市中病院での研修を組み入れたスケジュールが設定されており、新生児期から思春期までの各発達段階に応じた総合的な診療を行えるように研修する。一方で、小児科という全人的、包括的な総合医療の基盤となり得る内科、救命救急、地域医療実習などでの研修も組み込まれており、到達目標が達成されることにも配慮がなされている。 <p>主に産婦人科を中心とする研修 産婦人科については、妊娠・出産、産科疾患や婦人科疾患、思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において頻繁に遭遇する女性の健康問題への対応等を習得するために、幅広い産婦人科領域に対する診療を行う病棟研修を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 受け持ち医として、婦人科良性疾患・悪性疾患の患者を病棟にて担当し、内診、超音波検査などを自ら経験し、手術に参画する。 2. 正常妊婦の外来管理を研修し、受け持ち医として正常分娩、産褥、新生児の管理に参画する。さらに異常妊娠・異常分娩症例に積極的に経験する。 3. 産科または婦人科領域で、出血や急性腹症などの救急症例があれば積極的に経験する。 4. 思春期や更年期における医学的対応などを含む一般診療において、女性の健康問題への対応等を習得する。
<p>評価 (EV)</p>	<p>研修医が到達目標を達成しているかどうかは、各分野・診療科のローテーション終了時に、医師及び医師以外の医療職が別添の研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて評価し、評価票は研修管理委員会で保管する。医師以外の医療職には、看護師を含むことが望ましい。</p> <p>上記評価の結果を踏まえて、少なくとも年2回、プログラム責任者・研修管理委員会委員が、研修医に対して形成的評価(フィードバック)を行う。</p> <p>2年間の研修終了時に、研修管理委員会において、研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを勘案して作成される「臨床研修の目標の達成度判定票」を用いて、到達目標の達成状況について評価する。</p> <p>研修医評価票</p> <p>Ⅰ. 「A. 医師としての基本的価値観(プロフェッショナリズム)」に関する評価</p> <p>A-1. 社会的使命と公衆衛生への寄与 A-2. 利他的な態度 A-3. 人間性の尊重 A-4. 自らを高める姿勢</p> <p>Ⅱ. 「B. 資質・能力」に関する評価</p> <p>B-1. 医学・医療における倫理性 B-2. 医学知識と問題対応能力 B-3. 診療技能と患者ケア B-4. コミュニケーション能力 B-5. チーム医療の実践 B-6. 医療の質と安全の管理 B-7. 社会における医療の実践 B-8. 科学的探究 B-9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢</p> <p>Ⅲ. 「C. 基本的診療業務」に関する評価</p> <p>C-1. 一般外来診療 C-2. 病棟診療 C-3. 初期救急対応 C-4. 地域医療</p>
<p>研修施設の 選択法と指導者</p>	<p>小児科クリニック (ふくしまこどもクリニック、かなざきこどもクリニック、小児科 八木医院、ふじたこどもクリニック、森本小児科医院)</p> <p>(1) 指導医: 福島強次、金崎光治、八木 和郎、藤田真輔、森本康夫 (2) 診療研修の特徴: 外来小児科学、臨床ワクチン学、乳幼児検診 関連市中病院 (市立貝塚病院、国立大阪南医療センター)</p> <p>(1) 指導医: 森口直彦、井上 徳浩 (2) 診療研修の特徴: 外来小児科学、急性期疾患の入院診療、小児アレルギー疾患の管理</p>

周産期・小児科・産婦人科

<p>研修科目</p>	<p>ローテート順については、研修時に変更になる可能性がある。 【特別選択科】(12週):小児科あるいは産婦人科での研修。 【内科】(24週):内容については、初期臨床研修プログラムの内科を参照。 【救急】(12週):内容については、初期臨床研修プログラムの救急部門を参照。 【必修科】(20週):産婦人科、外科、小児科、メンタルヘルス科の4科。 各診療科については、初期臨床研修プログラムを参照。 【地域 医療】(4週):内容については、初期臨床研修プログラムの地域医療を参照。 【病院必修】(4週):麻酔科もしくは外科から選択。内容については、初期臨床研修プログラムの地域医療を参照。 【選択科】(32週):本プログラムに関連する診療科にての研修。 各診療科については、初期臨床研修プログラムを参照。</p>
<p>責任者からの一言</p>	<p>全ての研修医において求められるものは、将来専門とする分野にかかわらず、医療の果たすべき社会的役割を認識し、一般的な診療において頻繁に関わる負傷や疾病のプライマリーの診断とケアができることである。本研修プログラムでは、周産期・小児科・産婦人科に興味を抱いている諸君が、プライマリ・ケアと専門的成育医療を学べる研修内容として作成した。そのため、周産期・小児科・産婦人科分野に偏った臨床研修ではなく、広く関連する分野の診療科での研修や外部の協力施設での研修も可能として、視野の広い周産期医・小児科医・産婦人科医ならびに一般家庭医としての判断能力と応急処置法を習得することも出来るように配慮している。今後、周産期・小児科・産婦人科を中心とした医師の第一歩を充実して過ごせるよう、本研修プログラムを学ぼうとする研修医にとって意義あるカリキュラムであると信じている。</p>